

2013. 3. 28～3. 29 震災による三陸の森林被害と復旧

今回の現地研究会では、三陸北部の宮古市から三沢市の海岸域を対象に、海岸林や防潮堤の状態と背後の集落の被害状況を見学し、植栽試験等の海岸林復旧に向けた取り組みについて見学をする中で、海岸林の果たした役割および今後の復旧・防災のあり方について検討しました。

1日目の朝、49名の参加者は盛岡駅に集合、北上山地を横切り、まずは宮古を目指しました。その道中、森林総研・池田氏から北上山地の植生と土壌に関する話題提供をいただきました。宮古に入ってから、森林総研・坂本氏の解説により、明戸海岸で撮影された衝撃的な津波の様子を視聴しました。

最初の見学地の浄土ヶ浜では、浄土ヶ浜レストハウスの方から震災時の様子と復旧についてお話しをいただきました。



昼食後は国道45号線を北上しました。田老防潮堤では、海岸林の国際農研・星野氏らから、防潮堤背後の集落と海岸林の被害状況について説明を受けました。その後、バス内にて岩手県林業技術センター・石井氏と小澤氏から震災による岩手県の海岸林被害状況について説明をいただきました。



明戸海岸では、長大な海岸林はほぼ全滅してしまったものの、背後の集落は守られたことが説明されました。また、海岸林跡に設定された海岸林植栽試験地について岩手県林業技術センター・小岩氏らから取り組みが紹介されました。



太田名部防潮堤では三枚の防潮堤により、続く普代浜では防潮堤水門と長大な海岸林により集落への被害が防がれたことが見てとれました。これで1日目の行程は終了。



2日目は、はじめにバス内にて十府ヶ浦の海岸林消失の状況を概観した後、坂本氏から示された海岸林の再生に向けてのイメージを元に、復旧と防災のあり方について議論を行いました。

八戸市市川では、森林総研・中村氏からマツ林の枯損状況について説明を受けました。また、森林総研・小野氏の主導で土壌断面を作成し、津波により砂が堆積した様子を観察しました。



おいらせ町二川目では、青森県産業技術センター林業試験場・木村氏の説明により、青森県内における海岸林被害と植栽試験区の状況を見学しました。



三沢市四川目では、中村氏らによりクロマツ、落葉広葉樹の植栽試験状況について説明をいただきました。最後は参加者全員で記念撮影をしました。



非常に厳しいスケジュール設定でしたが、参加者の皆様のおかげで、充実した現地研究会にすることができました。現地をご案内いただきました、岩手県林業技術センター、青森県産業技術センター林業試験場、浄土ヶ浜レストハウス、国際農林水産業研究センター、森林総合研究所のみなさまに感謝申し上げます。

詳細は、森林立地 55(1)、51～55 ページをご覧ください。

(文責 事業幹事 志知幸治)